

〔堺市の現状及び課題〕

- 学習した基本的な表現を実際の会話に活用すること
- 学習意欲を高める授業改善の必要性
- 国際共通語としての英語力向上の5つの提言と具体的施策や第2期教育振興基本計画などにおけるグローバル社会に対応する人材の育成とそのため外国語教育の強化(実施学年の早期化、教材やNS等の効果的な活用など)の必要性への対応

➤日常生活における英語コミュニケーションの機会(リアル・コミュニケーション・シーン)を確保(拡充)
149,215千円

NS(ネイティブ・スピーカー)の配置日数拡大

- ・小学校5・6年生での年間10Hから12Hに、中学校への配置を6日間増に
- ・高校は1年間配置

➤評価及びPDCAサイクルの確立(新規)
1,075千円

※生徒に求められる英語力の達成状況を把握検証する必要性
〔国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策〕より〕

◆英語能力判定テスト
判定テスト
(研究校 500円×2,150人)

➤教員の指導力・意識改革(拡充)
3,180千円
➤英語授業力向上研究指定校(拡充)
1,044千円

教員研修

- ・教員の英語力の向上研修
- ・小学校3・4年における外国語活動指導研修
- ・効果的な音声指導に関する研修など

英語授業力研究指定校

- ・小中学校7校で、小3・4における外国語活動実践、中学校英語につながる小学校外国語活動のあり方、英語で行う言語活動中心の授業の実践研究

英語教育コーディネータの配置 3,374千円

＜効果的なTT授業のあり方や教員の指導力向上を充実を図るとともに、NS配置のない1学期に小中学校への訪問TT授業を行う。＞

〈堺市の英語教育の目標〉
コミュニケーション能力の育成(外国語の理解と表現の能力)
中学生徒50%の卒業段階において英検3級程度の英語力を有する